館報 おおくま

おもな内容

2面…新年のごあいさつ
3面…清流・人事消息
4面・5面…新年を迎えて
6面…町史予約要領
7面…マラソン・図書あんない
8面…文芸
9面・10面…みんなの広場

発行編集　大熊町公民館
印刷所　新栄社写真美術印刷㈱

学習発表会

ぼくは　すずむし
わたしは　こおろぎ
みんな　くつわ虫だ
大勢の　虫たちが　勢ぞろい
さあ　音楽会だ
楽しい　器楽合奏だ
それは　わたしたちの
学習発表会であり
お父さん　お母さん
そして　ぼくたちの
勉強の姿である

ピアノをひく　女の子
アコーディオンを鳴らす　男の子
それぞれの　役割があり
きまりがある
お母さんも　お父さんも
たくさんの　観衆も
まちがわないように
まばたきすらしない
緊張の一瞬であり
子どもたちの
精いっぱいの演技である
この　子どもたちの
限りない　成長を願う
明日を　未来を
健やかに

（写真は十二月五日行われた大野小学校の学習発表会風景）

新年のごあいさつ

教育長　太田芳一郎

昭和五十六年の新春を皆様すこやかにお迎えすることが出来まして心からお慶び申し上げます。

旧年中お寄せいただきました皆様方からの、ご協力とご支援に衷心より深く感謝を申し上げる次第であります。さて、待望久しかった大野小学校の建築が昨年末より槌音も高らかに、いよいよ着工の運びとなりましたことは、町長さんの強いとりくみと、議会そして町民の皆様方のご協力の賜ものであり、教育の機会均等、児童生徒の教育の立場から、これ以上のよろこびはありません、関係各位に心から御礼申し上げます。二ケ年継続事業でありますが、立派に完成されることを願い、教育委員会は新校舎にふさわしい根性のある魂を入れるよう努力をつづけることをお誓い申し上げたいと存じます。

大野小学校の完成予想図
建築工事が順調に進む

幼児教育と小中学校教育におきましては、特に「健全なる精神は健全な身体に宿る」との一貫した教育信念のもとに前年にひきつづき体力づくりと道徳教育を重視した教育を進めます。特に**小学校教育**におきましては新教育課程の基準による教育が昨年度より全面実施されました。小中学校とも相当の準備期間により、その趣旨が十分に生かされるよう研究、検討を加えられた筈でありますが、改訂の基本方針の特色が、「ゆとりと充実」であったために、これのみが重視されますと他の教科にまで影響しますので、昨年一年間の成果をふまえて両小学校共、特色ある学校経営がなされるよう先生方と研究を加えながら委員会も進めて参りますのでご家庭の一層のご協力をお願いいたします。

中学校教育におきましても実質統合七年目になり教職員とご父兄各位の協力そして先輩、卒業生達のすばらしい足跡が、新しい中学校の伝統を形成しつつあります。今年度は新教育課程の基準による教育が全面実施されますので、知、徳、体、調和のとれた、ねばり強い生徒の育成に努力いたします。

社会教育、社会体育につきましては年々学習を望む人口が増加しており町民皆様の要望も多様化、高度化して来ております。公民館関係職員も挙げてこれらの事業を実施しておりますが、公民館運営審議委員、社会教育委員、体育指導委員等各位のご支援を仰ぎながら何とか遂行しているのが実状であります。社会体育におきましては今後昨年設立されました財団法人大熊町スポーツセンター運営協会（江又実局長）の事業の中でとらえるよう順次移行の形で町内体育施設の高度利用化を図って参りますのでよろしくお願い申し上げます。最後に、**町史編纂**についてでありますが皆様方から多大のご鞭撻、ご指導をいただきましたが、昨年度は耕地の基盤整備事業道平地区内の文化財遺跡が発掘され縄文晩期末期の土器多数発掘、大熊町の古代解明に貴重な資料となりましたことはご存知の通りであり、大熊町史編集上にもこの上ないよろこびでありました。既にご案内申し上げましたが史料編が刊行される運びとなりました。今後も全巻完成まで編集委員一同懸命に努力をつづけて参りますのでよろしくお願い申し上げます。

一九八一年の新春に当り、皆様のご健勝を祈りましてごあいさつといたします。

行事あんない

家庭教育学級
一月二十六日午前九時三十分
子どもと純潔教育

婦人学級
一月十九日午前九時三十分
町の歴史とふるさとの民謡

高令者大学一月十一日午前十時
親の期待と若者の願望

部落公民館長研修会
二月三日　午後一時
部落公民館の活動状態と進め方

年の始めに

公民館長　志賀友定

昭和五十六年の始めにあたり謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

皆様にはお元気で輝かしい初春を迎えられたことと心からお祝い申し上げます。

昨年度は社会教育事業につきましては町民の皆様方のご支援とご理解とを賜わり各種事業が円滑に進展いたしましたことを心から御礼申し上げる次第でございます。

「一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり」も、もう言い古し、聞き古された格言ではございますが、この言い古された格言にも、新年になりますと、なぜか一種の新しさが漂ってまいります。お正月には、ほかの言葉よりも、この「一年の計は元旦にあり」というのが、一番ぴったりと気分に合うようです。

お正月というものは、人間一生の中に何度も何度も迎える元日ではございますが、やはり、心がときめく、顔がかがやく、胸がおどる、という、いきいきした感激に打たれ、そして希望に満ち、一年の計画など進歩向上の意気に燃え、年頭にはだれしも大きな希望に胸はずませてこの一年間の計画をお立てになったことと存じます。

皆様方のお立てになりましたご計画のご成就を心からお祈り申し上げます。

私達職員一同も常に世論の現状を把握し時代に即応した計画的、総合的な社会教育事業の拡充整備を図る所存でありますので旧年にも増して、ご指導、ご鞭撻を賜わりますよう、お願い申し上げますと共に皆様方のご健勝とご多幸をお祈りして年頭のごあいさつといたします。

力作ぞろいの書画　生け花展

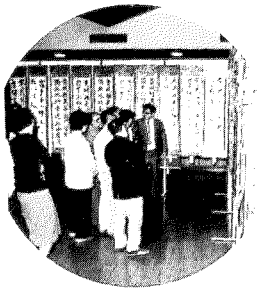
文化団体の習作を一堂に集めた大熊町の文化祭は、恒例の行事として毎年、文化の日を中心に行われており、今年度も十一月一日から三日間、大熊町公民館において開催された。会場には書道、絵画、盆栽、生け花など、園児、小中学生、一般の作品九〇〇点を展示、訪れた観覧者たちを楽しませた。

特に今回は、親子読書会の作品も展示され、これまでにない出品数となり関係者を喜ばせた。

協力団体

書道関係……小中学校・幼稚園・保育所・書典会・日本書道会・書道研究会・鶴心書道会・玄和書道会・親子読書会

生け花・盆栽関係……小原流・龍生派・盆栽水石愛好会



人事消息

教育委員会関係の各種委員が十一月三十日で任期満了となり、新たに次の方々が委嘱されました。

これから二年間、町の社会教育を始めスポーツ活動の振興に活躍されます。

＜スポーツ振興審議委員＞（順不同）

◎印が委員長○印が副委員長

◎渡部　悟○渡辺　清　吉田義貞
坂上　肇　泉田博隆　滝田健二
松本六郎　池下　広　臼井克彦
吉田　作

＜社会教育委員＞

◎志賀秀朗○志賀トリ子　竹並　孝
小林光一　藤森ヨシイ　渡辺博之
松永秀篤

＜公民館運営審議委員＞

◎渡辺　清○佐藤祐禎○泉田澄子
永岡英一　吉田和男　松本光清
鈴木保蔵　菅野良久　石田宗昭
岡田為之　古田一郎　吉田　茂
松本　実　千葉幸子　根本忠孝

＜体育指導委員＞

◎常盤利昭○末永精一○片岡重行
大竹　保　志賀秀栄　臼井克彦
小野田正一志賀直行佐久間文子
鈴木照久　村上作之亟　田沢憲郎

清流

食卓を囲むとき

館報編集委員　佐々木親兵衛

去る十一月二十九日のテレビニュースで、子どもが親を殺害したことを報じられたが、この種の事件は時々新聞や誌上を賑わしている。世の中の家庭はそれぞれ趣を異にしているが、私は家庭のふんい気は、その寝食を共にしている人々の考え方によるものと思っている。

ただその考え方が個々に進めば収拾の難かしさが浮き彫りにされ、何かと表沙汰になりがちになるのではなかろうか。一家のだんらんは、日常の食卓に生じる率が多いように感じている。

現代の社会では、春夏秋冬を問わず生産の向上と、交通の便利さによる流通機構が発達し、外国の産物が輸入されるようになった。

また、調理器具の発達、調味料の進歩等、わたしたちの食生活においても、各国の一寸した料理が専門店へ出向かないでも味わうことができるようである。食事の度にわたしたち年代の人間では、昔事でいうならば、何かの吉事でなければ食することが出来なかったものが、日常の食卓を賑わしている。そのために季節による食べ物の味覚が薄れてゆくような気持がしてならない。

食卓の材料にしてもすっかり出来あがり、一寸手を加えるだけで食膳を賑やかに出来、楽しい食事を過ごすことが出来る現在なのに、どこか一味違う異和感を招く時があるような気がしてならない。現代は昔の生活様式とは相当かけはなれた生活になり、便利になって、昔のように追いかけられる生活から、生活様式の変化を追うために違った意味の追いかけられる生活に切替えられている状態ではないかとつくづく感じさせられる。

このような時に、やはり和やかさをかもしだす場所として、家族が気やすく集まれる食事時が一番よい場所ではなかろうか。戦前であれば食事の時は余りしゃべらないで食事をすますのが常識であったが、時のうつり変りで会話の場所としての食卓が目に見えない役割を果している感じがする。そのうえに昔ながらの旬のもの、手作りの料理がたまにあるところに、目新らしさと食事のうまさを味うことが出来、おのずと話しがはずむ空気が生まれ、楽しい一刻が一日一日の動く糧になるのではなかろうか。

年末年始の
交通事故防止運動実施中

——昭和56年1月14日まで——

年末年始は飲酒の機会が多く、これに伴って飲酒運転や無謀運転が多くなります。さらに積雪・凍結などにより道路環境が悪化しますので、これらに起因する事故を町民総ぐるみで防止しましょう。

待ちましょう

はらはら　どきどき　わたるより

新年を迎えて

年代ごとに酉年生まれの方々にご執筆いただきました。それぞれ、人生の楽しさや役割などをかみしめながら新しい年を迎えられたことと思います。町民の皆様と共にお慶び申し上げます。

謹賀新年

今年も町民の皆さんと共に館報を編集して参ります。お気づきの点、ご意見等お寄せ下さい。

〈公民館報編集委員〉

松本幸一　井戸川佳正
志賀栄子　木幡キサ
島　覚　鎌田清衛
佐々木親兵衛

〈公民館報編集事務局〉

大熊町公民館職員一同

テニスと私

西内利郎（熊町）

「今度来る時には一緒にテニスをしたい。」とかねがね息子に言われていた事を思い出し、去年の六月ラケットを持って埼玉県に住む息子の家に出かけた。二時半に着き、一休みしてすぐそばにあるコートに行った。すいていたので早速ボールを打ち始めた。最初軟式を三十分、十分休んで今度は硬式でやる。年のせいか長続きはしないが、適当に休みながら約二時間コートを走りまわった。

七十一歳の私と三十一歳の息子と親子でテニスが出来て、とても嬉しかった。久し振りのテニスだったが、昔取った杵柄ならぬラケットを、どうにか思うように振りまわせて愉快な時を過ごした。翌日疲労が出ないかと心配したが、大した事もなく、息子とまたテニスを楽しんだ。

私とテニスとの出会いは約半世紀程も前、双葉中学（現双高）一年生の春だった。新設校だったので上級生はなく、部員も少なかったので、テニスをしたい時には、いつでも出来た。

双中四年生の春、二十台の自転車を（自動車ではない、金がなくて汽車にも乗れなかった）連ねて平商業まで対抗試合に行った事もあり、大学時代は、校内アマ庭球大会で準優勝した事もあった。

終戦後帰郷して教員になり、県教員庭球大会に数回郡代表として出場した。他に野球もやり、陸上競技では百米の走者として県大会（中学）に出場第二位になった。少年時代から今までスポーツとは離れられない仲だったと今つくづく思い出している。

九月にも埼玉に行き親子でテニスをして来た。息子は多少加減をしているようだったが、結構対等に打ち合えたと思っている。帰り際に息子の嫁が「隣近所の若い奥さん達が『お宅のおじいちゃんに負けない様に、今から体を鍛えておかなくちゃ……』と話し合っているんですよ」と言っていたのには、少々くすぐったいような嬉しい気分になったものだった。その嫁はママさんサッカーで県大会に出ると張り切っており、三歳と五歳の孫は水泳教室に通っている。

若い時からスポーツをしたおかげで、私は七十一歳の今でもテニスが出来るし、癌にさえならなければ、八十歳迄もテニスが出来るだろうと思っている。今年は何回息子と親子テニスが出来るか、楽しみにしている現況である。

私の体験から〃若いうちからスポーツを〃と皆さんに申し上げたい。

明治四十二年
五月十九日生まれ（七十一歳）

万里の道をゆく

志賀トリ子（熊町）

「トリちゃんはとり年生まれだから、そう名前をつけてもらったの？」とよくきかされます。

たしかに私はとり年生まれには違いないのですが、子どもの頃には、この質問をされると、ちょっと心が傷ついたことを覚えています。

父は私が理解できる年齢に達した頃に、名前のいわれを話してくれました。

大正十年三月三日は現天皇が皇太子として、はじめて欧州に旅立たれた日で、その日に生まれたので、万里の途を登るにちなんで、登里子とつけてくれたとのことです。「なぜそれがそのまま戸籍にのらなかったか？」ですが。

それは名前を届けてくれるよう頼まれた人が、子どもに字がむずかしくては、名前を書くのが大変だろうと気をきかせて、かんたんなとり子として届けてくれてしまったのが、その理由のようです。

その話を聞いてからは、やはり父は私の出生を喜んで大事に考えてくれていたのだと十分に満足し、よその人が名前についてどう解釈しようと、一切気にならなくなったことを覚えています。

こんなことを書き出したのは、自分の名前をよく考えてみる機会が、もう今年六十歳になろうとする今頃になって出てきたからです。

二年ほど前、字が少しでも上手になれたらとの願いをこめて、習字をはじめました。今もはずかしい程下手なのに、それでも私なりにとりくんでいます。

でもたとえ字を書く才能がなかろうと、書道の道は遠かろうとも親のつけてくれた名のように、コツコツと少しずつでもたゆまずやろうとする「姿勢」を問題にするなら、登里はいかにもふさわしいように思えます。

人は一生勉強を続けなければならないといいますから、私も還暦、初心にかえり、万里の道への一歩をふみ出した気持で、書に限らず、物事にもとりくみたいものだと思っております。

大正十年
三月三日生まれ（五十九歳）

ゆるめるな心の窓に鍵かけて

ところ変われば

木幡　義一（野上四）

私は関西生まれ（三重県四日市）のよそ者ですが、考えてみると大熊町に在住、四十年余りになります。大半はサラリーマン生活で仙台市に住んでおりました。

終戦後やっと家（野上）に帰り家族と共に暮らすようになり、近親の方々の交流を深くして頂いて幸福な老後を送っております。これも家内（木幡トリ）が町の方々から絶大なるご支援を賜わったおかげと深く感謝しております。

さて私の現在は家事に励むといっても既に老境であり、この移り変りの激しい社会では何のお役にたつこともできません。「日暮れて道遠し」という所です。かえって厄介をかけることばかり多くて申訳ないと思っております。

この地方で考えられることは田園で働く女性の多いことです。関西では全く見られないことでした。農業を主体とする東北では家族一同団結して働かなければならないのだと知りました。でも最近では機械化され広大な耕地も短時間でなし遂げられるようになり、以前程外で働く女性が見られなくなったような気がします。

ある人から聞きました。

「相馬よいとこ女のよなべ、男極楽寝て待ちる」と。昔からこの相馬は女の人が働いたのだと思います。

明治三十年
二月二十日生まれ（八十三歳）

趣味を健康の支えに

半杭　和明（下野上四）

新年を迎える度に「今年こそは今年こそは」と思うのですがふり返ってみると、ただ平々凡々と過ごして来たようです。でも、健康であることだけは幸せだと思っております。

「中年すぎて趣味を持たない人生は砂漠のようだ」と申しますが、繁雑な社会生活の中では、若い者も中年の者も、うるおいのある豊かな心のやすらぎとなるような趣味を持ちたいものです。

いっぽうスポーツをやる人は心まで健康だと言われますが、世界のホームラン記録を次々に書きかえてきた王貞治選手は、三振しても、バットやヘルメットを投げるようなことは一度もなかったということです。ボロボロになるほど奥歯をかみしめる努力と根性が彼をそうさせたものと思います。

ことしはとり年ですが、中国の話に「北溟に魚あり、その名を鯤という。化して鵬となり……一翼三千里という。」これは中国の荘子という本に出てくる鳥です。つまり、一回羽ばたくと三千里も飛べるということです。ことしはまさに一翼三千里、雄飛する年であるよう町民の皆さんと一しょに健康に留意しながら大いに飛ぼうと思っております。

昭和八年
十月十一日生まれ（四十七歳）

ちょっぴりの冷静さと余裕を

藤舘　静子（熊幼）

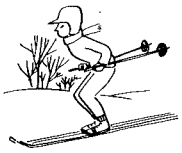
ひじょうな速さで過ぎていく一日の生活ですが、目にも止まらない程のはやさで、ぼんやりしている私には、二つも三つも取り残されていくような気さえしております。物価の上昇、不安定な政治政策、それからくる生活の苦。なんだかこんな事に追い回され、揺り動かされている生活のような気がしてなりません。最近は、共稼ぎが多く女性の職場進出が目立ってきています。女性が仕事をもって活躍すると言う事は大変素晴らしい事で、社会を構成していく一員として生きがいすら感じられるものです。ただ、職場に家庭にと非常に忙しい生活が少々心配されるわけですが、もう少し時間の余裕が与えられていいのではないでしょうか。とかくこの頃は、生活のための実収入という事が前面に出ている事が残念でしかたありません。四段に組んだはせに登ってトンボをつかまえたり、漬け物の大根をほしたり、落葉を掃きあつめて火をたき、いもをやいて食べたり。そして、その回りにはいつもいたずら坊主がいて仕事を三倍にしてくれる。こんな目まぐるしい現在、こんな呑ん気な生活があっていいのではないでしょうか。実際、こんな余暇のない社会に生きている今、私たちは生活に振り回されない余裕ある時間をもちたいものだと思います。とかく追い流されやすいのですが、こんな社会だからこそ大切な事だと思います。

今年は酉年、私の年です。当面する生活問題に食い下がるファイトとそれでいて、ちょっぴりの冷静さと余裕を失なわないで仕事に、家庭生活にと頑張っていこうと思っております。

昭和二十年
五月二十九日生まれ（三十五歳）

町民スキー教室

募集人員　各回45名



第1回　1月18・19日（1泊2日）
山形県天元台スキー場
会費　8,000円

第2回　2月8日（日帰り）
宮城蔵王えぼしスキー場
会費　3,000円

申　込　参加費を添えて大熊町公民館へ申込み下さい。
先着順で締切らせていただきます。（印鑑持参）

主催　公民館・町体育協会

ふれあいから

小畑信子（熊川）

一九八一年酉年、もう干支を二回りするなんて信じられない感じです。二回りというと二十四歳。月並みな言葉ですが、月日がたつのはなんと早いものでしょう。おもわず今までの自分を振り返ってしまいます。

学生時代は、先生がわたしたちの行動や勉強、娯楽等にある程度責任を持って参加させ、大きな輪の中に入らせようとしてくれました。乗り気でなくても、ある程度そういうものの外部に触れてきたような気がします。

でも、社会に出てからは、そうはいきません。社会五年生になった今、目をとじて思い出にふけるとき、青年学級やスポーツ活動、交歓研修会等、いろいろありますが、その中でも一番印象的でしたのが、二十歳の時に参加した、新有権者の集いです。相馬にある海浜青年の家で、県内各地から集った男女百名の研修会でした。起床、消燈、食事、布団のたたみ方、どれをとっても規律が厳しく無駄のなかった貴重な体験でした。これから社会に出る方もいっぱいいますが、機会があったら是非参加し、何か一つでも身につけたいものだと思います。

一日一日が、とても早く過ぎるので、とまどいを感じますが、自分一人では何もできないのです。

仲間たちとの交際、大人の助言など、数多くの教えを自分なりに吸収して、自分の年齢分だけは、何かをつかんだと思うようになりたい。一九八一年は、わたしたちの年なので、大人すぎず、子どもすぎない魅力的な人間になれるような年にしたいと思っています。

昭和三十二年
四月二十日生まれ（二十三歳）

わたしはとり年

川口安里（熊町）

私は、今年で十二歳だ。新年をむかえて心も新しくいろいろな希望を持っている。今年、いよいよ、最高学年になる年でもあるし、それにふさわしい行いをしたいと思う。それでは私の新年をむかえるにあたってのほうふを二、三述べたいと思う。

今までは最高学年ではなかったのでせきにんというものを、たいしておもく見ていなかったが、六年生ともなると、下級生のおてほんとなるような、りっぱな生徒になりたいと思う。

それと、今までは、勉強なんてことを自分から進んでやることは、めったになかった。いつも母にしかられた。でもよく考えてみると、勉強というものは、人のためにやるものではなくて、自分のしょうらいのことを考えてみれば、とうぜんのことである。だから今年は、まず、何をするにも人にいわれてからではなく、自分から進んでがんばろう。最後に一つ、自分の行いに、責任を持つことだ。このことは、さきに述べたように、最高学年になるということで、決意したことだ。

これら三つのことは、私にとってむずかしいことであるが、しかしとうぜんのことであって考えてみれば、ごくかん単なことのようでもある。今年はとりどしで、にわとりは、頭をふるたびにものごとを、忘れるといわれているが、私も、少し似ているので、この三つのことを、わすれないように、今年一年がんばりたい。

昭和四十四年
十一月十三日生まれ（十一歳）

映画会「父よ母よ」

サッちゃんの四角い空も同時に上映

とき　一月二十五日

木下恵介監督によるこの映画は、家庭や学校、地域など、大人社会の中で、悩み、迷い、傷つき、追いつめられてゆく子どもたちを、ある時はやさしく温かく、ある時はきびしく励まし、〈人間らしい生き方〉を、社会全体でとり戻さなければと、訴えかける作品です。

上映日時と会場
一月二十五日
大熊町公民館において
午後一時・午後五時二回上映

前売券
一枚一、〇〇〇円で婦人会、青年会員が取り扱っています。詳しくは後援者（大熊町公民館）へ

主催　町婦人会・町青年会

大熊町史予約申込受付中

第四巻史料　近代編

大熊町史は、第一巻通史編（未刊行）、第二巻原始・古代・中世史料編（未刊行）、第三巻近世史料編（未刊行）、第四巻近代史料編（今回刊行）で構成され、「第四巻史料近代編」が最初に出版されます。現在大熊町史編さん室で予約申込を受付ております。

大熊町史第四巻
史料近代編の予約要領

頒布価格　予約特価四、〇〇〇円
頒布予定　昭和五十六年三月
申込方法
大熊町大字下野上字大野六三四
大熊町役場内
大熊町史編さん室宛
ハガキまたは直接（電話可）
お申込み下さい。

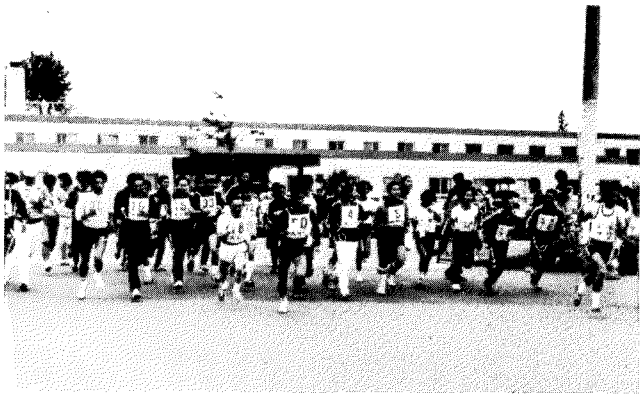
申込締切
昭和五十六年一月三十日

配本と代金納付
申込みいただいた方には、配本の日時、場所等を連絡いたします。その際、現品と引換えに代金をお支払いいただきます。
また、郵送の場合は、送料実費（現金書留）にて代金受領後郵送いたします。

体　裁
規格　B五判上製本箱入り
表紙　総クロス
印刷　活　版
頁数　約五七〇頁

マラソンで体力づくり ジョッキングにも人気

今年で四回目を迎えた町民マラソン大会が、十一月二日大野病院前スタート、山神前折返しのコースで行われた。今回からは、町民だれもが参加できるジョッキングコースも設けられ、老若男女多数が参加した。午前十時、ピストルの合図で一斉にスタート、激しいデットヒートを展開した。なお成績は次の通りです。



ジョッキング（四粁）

一位　松本孝光（五十五秒差）
二位　金森健生　三位　渡辺典郎

マラソン

中学生男子（四粁）

一位　木村紀夫（十四分八秒）
二位　松本誠喜　三位　渡辺信也

中学生女子（四粁）

一位　渡部るみ子（十七分四秒）
二位　小野田政子　三位　泉田明美

一般（二十九歳まで八粁）

一位　梶原裕正（二十六分四十八秒）
二位　石井正弘　三位　佐々木幸雄

一般（三十九歳まで四粁）

一位　渡辺　守（十六分十八秒）
二位　倉島要三　三位　米倉　久

壮年男子（四十歳以上四粁）

一位　大内正美（十五分三十五秒）
二位　池沢昭吉
三位　結城松雄

一般女子（四粁）

一位　渡辺栄子

女子シングルス

一位　佐久間文子
二位　横田三重子
三位　鈴木洋子　北内留美

バトミントンも大衆スポーツに

最近、バトミントンの愛好者が増え、大会の開催が強く望まれていたが、関係者の協力により、ようやく第一回町民バトミントン大会が実現した。大会は十一月三十日、大熊中体育館において開催され、町民七十余名が参加、町長杯並びに民報杯の争奪が行われた。

成績は次の通りです。

男子ダブルス

一位　猪俣一憲　飯田武利組
二位　本間　宏　小塚達男組
三位　杉内　広　泉田幸重組
〃　横山常光　吉田和也組

女子ダブルス

一位　横田三重子　北内留美組
二位　板野恵美子　大野和子組
三位　渡部ヤイ子　藤井祐子組
〃　佐藤京子　佐久間文子組

男子シングルス

一位　山田保夫
二位　本間　宏
三位　猪俣一憲　佐藤直彦

親子登山

好評を得た親子登山
約4kmの登山道を歩き
頂上で記念撮影する親子

図書あんない

「子どもに、家庭に」読書を広めよう！を合い言葉に、公民館では親子読書会の結成と育成に力を注いできたが、これまでに町内四ケ所に十二団体が結成された。

さらに、これらの活動をより普及させるため、公民館図書の充実につとめており、この程、児童向、成人向新刊書一四〇〇冊を購入し、皆さんの利用をお待ちしています。

また町民の方々からも暖かい善意があり、次の図書を寄贈していただきました。御礼申し上げます。

寄贈者

小山吉範氏
「江戸の花火」ほか二二二冊

渡部俊男氏
「少年と鷹」ほか八十六冊

吉岡郁郎氏
チャタレイ夫人の恋人
ほか六十四冊

町民憲章

健康で楽しく働ける　豊かなまちを　つくりましょう
みんなで助けあい　明かるいまちを　つくりましょう
きまりを守り　平和な住みよいまちを　つくりましょう
自然を愛し　きれいなまちを　つくりましょう
進んで学び　香り高い文化のまちを　つくりましょう

文芸

詩

ぼく

大小二年　いまい　つよし

ありみたいに
小さい　ぼく
どうして
小さいんだろう
ごはんを
いっぱい　たべているのに
はやく
大きくなりたいな

かぜ

大小四年　藤森　仁子

野や山がさいごのおしゃれを
楽しんでいる秋
画家の北風は
美しい色の葉っぱに
ねらいを　さだめて
おそってきた
ビューン　ビューン
つめたい北風の画家は
あたたかそうな
花や葉っぱの　色を集めて
じぶんのおうちへ持って行った
北風は
どんな絵をかいているのだろう
美しい秋の風景を
写生しているのかな

短歌

高桑　重乃

野の道を歩みてゆけば赤トンボ数
かぎりなく道をさへぎる
ふと出づる古里のなまり幼らはお
かしと笑ふ我も笑ひぬ

川木　裕子

盆踊りも終りなるらし早打ちの太
鼓の音の風に乗り来る
いつしかに季移ろいて庭すみの白
き木槿の咲き初めにけり

佐藤　祐禎

藁ボッチ積む術わすれて世を終へ
し父を呼び来てすべを聞くなり
真夜ふかき体育館に球を追うクラ
ブの友の声のさやけき

鎌田　清衛

月を賞で活けし秋草そのそばに今
朝ははじけし栗ひとつあり
年毎に時刻は疾風とよぎるなり忙
し忙しと今日も出でゆく

中山　貞夫

軽き穂をいたわりながら刈る妻よ
稲田に細き影落しつつ
反抗期の娘を悟したる秋の夜の独
り飲む酒ほろ苦かりき

飯田　良江

降る雨は下がれる天糸瓜伝はりて
雫となりてポトポトと落つ
入相の鐘は静かに響き渡り茜の空
は翳りはじめぬ

俳句

結城　千代

万緑の奥なる細き清水かな
万緑に滝一条のかかりなり

武内　よね子

孫の留守淋しサルビヤ燃えにけり
紫蘇の香をもて迎えけり遠き娘を

河西　かつ

我が顔のうつれる清水掬ひけり
夏長雨朝の挨拶皆似たり

佐久間　信子

梨とり入れ息子を荒く使ひけり
鈴虫の鈴澄むところ子を寝かす

渡辺　政美

壷すがしわが家のダリヤ溢れしめ
壷の菊妻が変へたり手術前

川木　裕子

夕虹の弧を翔け抜けて鴎かな
盆踊り終ひ太鼓の遠音かな

飯村　洋子

退院を待ちわぶひとに秋立ちぬ
病廊に鈴虫鳴きて子の眠り

猪井　静枝

点滴をみつめる日々や梅雨長し
鷺草のあるかなきかの風に舞ふ

木村　蓉子

風止んで紅ほのぼのとねむの花
ねむが葉をたたんで夕べ寺鐘澄む

中山　安子

繭臭にまみれ繭かく老夫婦
杖なしの一歩たしかや蝉しぐれ

菅野　ミヨ

秋風に素立ちの稲穂波立たず
つややかに熟れし栗の実拾う朝

高野　昭二

湯の宿に箸おいてみる谿紅葉
ズリ山に終い花火を惜しみけり

民話

殿様の膝を枕に

むかし、熊川に熊川を名のる豪族が住んでいました。大へんりっぱな人でしたので、相馬の殿様に気にいられてお城のある中村（今の相馬市）によばれて家老になりました。そのころ、殿様は参勤交代といって、一年はお城に、次の年は将軍のいる江戸（今の東京）で暮すことになっていました。

殿様は江戸に行って留守の時でした。熊川は殿様のかわりにお城の世話をしておりました。ところがふとしたところから病気になり、医者にみてもらっても中々よくなりません。熊川は十人の医者にみてもらい、治るか治らないかを投書させました。ところが養生すれば治るというのが二人しかいませんでした。

熊川は家族にいいました。「江戸へ上る。かごを用意せよ」と。家族は止めました。家来もとめました。しかし言い出したら聞く熊川ではありません。仕方なしにかごを用意し江戸へ向って出発しました。宿場熊川にも一泊し、先祖のお墓にお別れのあいさつをしました。十日で江戸につきました。かごにゆられた熊川は張り切っていました。

早速殿様のお屋敷にでかけました。殿様は大へん喜んで熊川を近くよびよせ、家来を遠ざけて政治の話をしました。しばらくして、殿様は「熊川疲れたろう。宿へさがって休むがよかろう。」といって帰しました。宿舎に帰ると熊川は急に弱って動けなくなりました。

それを聞いた殿様は毎日宿を訪ねて看病してあげました。また江戸で一番よい医者にもみせましたが熊川は一向によくなりません。

枕もとで看病していた殿様はいいました。

「熊川、お前はよくわしに仕えてくれた。ありがたく思うぞ。もしお前がいなくなったら、わしは誰を頼りにしよう。」「殿様、村田与左エ門」「村田？」

「ハイ。ただ知りすぎて油断なさってはいけません。」

言うだけのことを申上げた熊川は、にわかに容態が悪くなりました。殿様は熊川の頭を膝の上にのせて看病してあげました。熊川の両眼からは涙が流れました。そして殿様の膝をぬらしました。やがて熊川は安らかに眼をとじました。

時に熊川は四十一才の働き盛りでした。

熊川の子孫は代々筆頭家老（家老の一番上の人）として殿様に忠義を尽しました。

みんなのひろば

考えよう 愛とムチ

最初に三つの例を挙げる。

その一つ、ある小学校の女の子が、お店から六百円相当の学用品を盗んだ。現行犯として盗品は取り上げ、家に電話したところ、しばらくしてその子の父親が、「娘は品物を持っていない。お前さん、俺の娘を罪人にするのか。」と、どなりこみ、あげくの果ては、学校でどんな教育をしているんだ……。と電話をかけてくる。

その二、ある中学校の男子生徒が、店先にあった新品の自転車にだまって乗ってきた。「友だちから貸してもらっている。」という子どもの言うことを疑うこともなく、見すごしていたが、三日後、盗難車があったことを知った父親は、子どもが寝てしまってから、こっそり店先に返してきて、しらんふりをしていた。

その三、勘平という十歳の少年が、裏で拾ったという栗の実をみた父親が、「うちの栗の木から落ちたものか、それとも隣の家の栗の木から落ちたものか。」と問いただした。なぜならその栗の実は、自分の家の栗と隣の栗とまぎらわしかったからだ。二・三問答していた父親は、静かに、ゆっくり、しかし厳とした態度で「その栗の実を、元あった場所へ返して来なさい。」と言って返させた。

さて、この三つの事例と、三人三様の父親の態度を、どう感じられるか考えてみようではありませんか。

誰でも、我が子ほどかわいいものはありません。だから、「うちの子どもに限って……。」と言う。友だちがそそのかしたのだ。先生が悪いのだ。と責任を他に押しつけてしまったり、万引した品物を払えばいいだろうと、お金で片づけてしまう親が、子どもをかばってしまっては、たいへんなまちがいで正しい善悪も正しい判断も育ちはしない。物ごとの善悪は、学校だけで育つものではない。常日頃の家族の生活の中で育っていくもので、とりわけ、両親の態度こそ大きな比重を占めていると思う。

勘平少年が、せっかく拾った栗の実を「もとの所へ返して来い。」と言われた時は、悔しかった。そして父を恨みもしたが、自分が今、子どもを育てる年代になって、父親が自分にとった態度の正しさ、立派さ、父親のやさしさ、きびしさがわかるにつれ、改めて父親を尊敬せずにはいられないと述懐している。

真の愛は、単にかわいがることだけではない。きびしさも愛である。そして、そのきびしさ愛のムチは、両親、いや父親にしかできないのではないだろうか。幼ないうちにムチと感じはじめないうちにこそ、本当の愛のムチが必要に思う。成長してからのムチは、反発さえ生じ、新聞紙上の事件にもつながる感をいだくのである。

一住民

旅に拾う

あるとき小旅行に出かけた。満員バスの中では大勢の客が秋の紅葉を楽しんでいた。その中に外人青年が三人、何かを話しながらチョコレートを食べ始めた。私は何げなく視線を注いだ。すると一枚のチョコを三人で分け合い、楽しそうに食べている。そして空になった包装紙は自分のポケットにしまいこんだ。公衆道徳が身についているような気がした。

さらに外人客のとなりには、日本人の青年が座っていた。そこは「お年寄りの優先席です。お年寄りが来たら席をおゆずり下さい」と書かれている。ちょうどバスの中は満員であり、老人に近い客も数人立っている。何か対照的なところを見せられた週末のひと時である。

野上太郎

農業雑感

渡辺利綱（大川原）

冷たい夏と、天候不順、激動する世相を反映するかの様な、八十年代の幕明けである。当町も発電所建設を契機に大きく変貌しつつある。農業も例外ではなく、近くに就労の場を得て、兼業化に拍車がかかり、生産構造の多様化や、生活環境の変化等、様々な影響を受けるに至った。また、減反問題を始めとし、畜産や果樹にしても、不安定な要素が多く、農業を取りまく諸情勢は冷害と合わせて、農村に暗い影を落としている。しかし、「百姓の来年」と言う言葉がある。また頑張ればいいさ。天災や失敗を恐れず、前向きに進もうとする姿勢が大事なのだ。だが「百姓の来年」は受けとり方によっては、諦めに似た、投げやり的な響きがある。米の収穫を待つのに一年を要し、仔牛から育てて、仔を見るまでは、足かけ三年もかかる。まして小さな苗木を植え、子孫に美林を残そうなどと言うものなら、何十年以上は間違いない。何んと、気の長い話よ。我が経済大国が誇る、輸出の花形、車、あるいはテレビが、秒刻みで生産される工程と比較すると、将に雲泥の差である。近年、工業の論理が農業にも導入される。養鶏に代表される如く、高能率、高生産、低コスト、大いに結構だが、迷惑でもある。生産効率のみを重視した、見かけ倒しの農産物の氾濫は、決して消費者のためにもならないだろう。また農業を語るに、後継者問題や嫁不足の話題がでる。「○○対策」の看板を掲げて、救済措置を講じてくれるご心配は有難いが、騒ぎ過ぎの感もする。私達の周りにも過去の、農民の甘えや、受身の体制から脱皮し、農業の振興や地域の発展に意欲的に取り組もうとする青年も多い。小手先だけの打開策よりも、農村の若者に生き甲斐と、夢を与えてくれる、真の農政の確立を期待したいものである。大地に根ざした若者は、強いはずだ。いま農業の見直しが叫ばれているが、農業にだってバラ色の明日はある。とるに足らない信念と、つまらない意地を張って「百姓の来年」に挑戦だ！

大野駅からお願い

指定券は一ケ月前から発売します。電話でも受付ますので、地元大野駅を気軽にご利用下さい。

テレビが教える お母さんの勉強室

子どもにとって望ましい家庭のあり方、国や学校での授業風景、社会生活の中での子どもの生き方などを取り上げている幼児・小学生を持つ母親向けの番組です。是非ご覧下さい。

1月

五・六　教育対談
十二・十三　おもちゃで学ぶ
十九・二十　子どもを見る目
二六・二七　内べんけいと外べんけい

2月

二・三　入学前の生活しつけ
九・十　入学前にかずとことば
十六・十七　しかり方
二三・二四　私の子ども時代

教育テレビ
午後三時三十五分から
四時五分まで放映

総合テレビ
午前十一時二十分から
十一時五十分まで放映

老人ホームに モチと民謡の贈りもの

お年寄に良いお正月を迎えてもらおうと、大熊町民謡研究会（会長　杉内政己）と大熊町青年会（会長　佐藤　等）では、富岡町にある老人ホーム東風荘を慰問、一足早いお正月を楽しんでもらった。

去る十二月十四日、会員総出でモチ米や野菜などを持参、あたたかいモチをごちそうしたものです。この慰問は会の恒例行事として行っているもので、今年で十数年つづけられています。お年寄からは大変親しまれており、訪れるのが待ち遠しいとまでいわれます。当日は、「あんころモチやぞうにモチ」を作ってごちそうし、さらに民謡会の踊りや歌を披露し、みなさんから感謝された。

編集後記

◎年を追うごとに、青少年問題が大きく取り上げられているが、一年をふり返ってみるに、子どもの自殺や校内暴力、父母殺し等、悲惨な事件が相次ぎ、この、すさんだ心からの脱皮と、思いやりを育てることが強く叫ばれています。

◎「鉄は熱いうちに打て」「三つ子の魂百までも」等といわれるが子どもも幼な日のしつけが肝心だといわれます。わたしたち父母はややもすると、幼児期を気ままに育ててはいないだろうか。反省の暇を見つけたいものです。

◎公民館では、家庭教育学級に、そして婦人学級、高令者大学に「子どもの望ましい家庭指導について」の学習を盛り込み、正しい家庭教育の方向づけに、精いっぱい努力しています。是非ご参加を。

◎師走も押し迫り、気ぜわしく館報の編集を終え、ほっとする間もなく「新年こそは、さらに充実を」とスタッフ一同張り切っています。皆様の暖かいご指導とご鞭撻をお願いします。

◎館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度で

① 主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。

② 政治的な色彩を帯びたり、個人非難に属するものでないこと。

ふるさとを思う 心のうすれ花

川合　緑

わたくしは旧熊町村を離れ近くの浪江町川合に嫁して三十五年になりました。思いをめぐらす時に、熊町の道路が国道でありながら真中に川が流れ両岸に柳がしだれ、洗い濯ぎに東、西側の人達が朝に夕に顔を合わせての話しのやりとり、また過した時代が物心つく頃より戦時中で感傷に耽ることもなく戦争に勝つことだけを信じて生きる、そのような時を過したふるさととして心をよぎる。磐女を卒業し、時の流れに沿い磐城陸軍飛行学校（現在の東京電力原子力発電所）へ勤務をし毎日自転車で砂利道を通い、引き転ばし、雪の日は朝五時頃起き歩いて通った思い出が強く印象に残っている。

東京電力の敷地前に佇みここは勤めに出た頃の事務所あそこには格納庫があったところかな、など思いを若き日に巡らしてセンチにふける一時は海風に吹かれて何ともいえない気分になる。

嫁ぎ、そして働き動くことの大切さをこれでもかと身に泌みこまされて過してきましたが、齢を重ね子どもも育ち孫も出来、ようやく体にゆとりも生じてこれから親に孝行と思い、それを心の一筋の糸にと頼りにしてきました。父母も他界した今、子ども心によく聞かされた親に孝行をできる頃にはでも楽しい毎日でした。商売柄毎日または一日おきに大熊町に配達やら商用などで孫をお供にでかけますが、懐しい思い出の前に立つ時など道路の良さ便利さには驚くばかり、家々も立派になり、戸数も増え昔日の面影はいづこへやら、

親は無しと浪花節調が思い出されて心が涙にくもる日も時折、今は亡き父母の命日に香を手向けにふるさとを訪れる程度です。　生れた所は余り変化もなく昔の川がコンクリートの下に隠れ車の流れの激しさと家並の立派さが目につき乙女時代の記憶とは一八〇度の開きがあるように感じられるこの頃です。時折母の残してくれた「おはぎ」の味を兄嫁が作り兄が届けてくれるのを頬張りながらふるさとを味い活気にあふれた町を思い浮べてこれから先の子ども達はどのようになってゆくのだろうかとふるさとを案じている一人です。

（筆者は旧熊町村熊町佐々木学長女として生れ旧制磐城女学校を卒業浪江町川合精肉店に嫁ぎ現在にいたる）